



全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 連載:第9回 学校が交通安全教育の指導を自ら 運営できるマニュアルの完成をめざして



実技は「8の字走行」「反応・回避」「飛び出し・停止」。このうちの2つを組み合わせて1時間(45~50分)でできるようになっている



学校が主体となって活動を継続してもらうために

高校生年代は、交通社会の一員として一層責任を自覚した行動が求められる時期である。将来にわたるため、ホンは生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守るようになるとともに、他の交通参加者への思いやりや譲り合いの心をも身につけてほしいと考えている。そこで、独自に教育プログラムを開発し、平成24年より関係行政機関の理解と協力のもと、高校生交通安全教育を開始した。これ



「8の字走行」「反応・回避」「飛び出し・停止」に代表される実技は、一方的に教え込むのではなく、体験や対話を通じて生徒自らが考え、加害者とならないための「安全確認の重要性」や、「人への思いやりの大切さ」を導き出せるように工夫されている。マニュアルでは実技それぞれについて、コース設定や進め方はもちろん、指導していただくポイントを明確にして、映像を使いながら、わかりやすく解説している。

人への思いやりの大切さについて生徒自ら考える

このマニュアルは、高校生の自転車による交通事故の防止を目的としており、収録されている教育プログラムは「実技」と「感受性教育」で、いずれも学校が主体的に運営できるような内容としている。今後、この内容をベースに、さらなる改善をめざし、検証作業を進めていく考えだ。

今回紹介した「高校生交通安全教育指導マニュアル」に関心をお持ちの先生、地域指導者の方は下記にご相談ください。

本田技研工業(株)
安全運転普及本部
TEL: 03(5412)1736

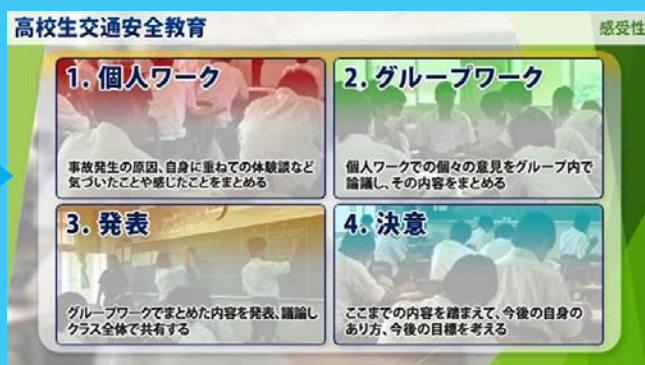
意見をいただきながら、最終的なマニュアルの完成をめざす予定だ。マニュアルの普及によって、高校における交通安全教育の定着が期待される。

ここで、人への思いやりや命の大切さに気づいてもらうためのものがある。マニュアルでは、実際に生徒たちが加害者となった自転車事故の事例をもとに生徒同士が話し合い、自ら考えることで行動変容を促す指導方法を取り入れている。

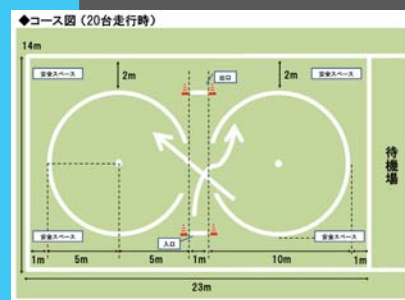


感受性教育も1時間で行えるカリキュラムで、クラス単位のホームルーム学習に適している

今回作成した高校生交通安全教育指導マニュアルの構成



各実技の「集合」「誘導」「内容の説明」「デモンストレーション」「実走行」「まとめ」などについて映像で解説



映像だけでなく、各実技のコース設定や進め方、指導のポイントを解説した資料、感受性教育の指導案と生徒用のワークシートなども収録されている。

